



会報 第35号

● 発行者 ●
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
● 編集 ●
同上編集委員会
● 印刷所 ●
(株) 杉山印刷

農産物自由化に思う

同窓会会長
小坂 利雄

気楽に無駄話ができる
同年代が次々に世を去り
吾一人の寂しさをひとし
お感じている今日この頃
であります。あらゆるこ
とが面倒くさくなり、な
かなか仕事に手が付か
ない数年前よりさらに重症
になり、正に老残の身に
なつたようです。

さて、今回同窓会の本原
稿依頼があつて何を書い
たらと迷いましたが、今
農業問題の報道が過熱して、
高い関心を呼んでおりま
すので、私見を述べてみ
たいと思います。

今年度の活動を振り返って

学校長
月井 誠一

同窓会の皆様におかれ
ましては、日頃から本校
の教育活動にご理解とご
支援を賜り、誠にありが
とうございます。お蔭様
で、今年度の様々な生徒
達の活動あるいは学校行
事の大部分をほぼ円滑に
進めることが出来ました。
今年度を振り返ってみま
すと、九州宮崎での口蹄
疫の発生、夏の記録的な
猛暑、そして昨年から続
く経済不況と急激な円高
等、様々な社会経済問題
が出ました。中でも、急
激な円高により、昨年度
以上に3年生の進路活動
特に就職への影響が大変
心配されました。これに
ついては、年度当初から
の進路指導の徹底、同窓
会の皆様や保護者へのこ

らの利害を図りながら、
日本もまた、自由の農産
物を守りながら交渉して
現在まで来ました。さら
に今回TPP（環太平洋
経済連携協定・例外品目
を認めない100%関税撤廃）
の話が出てまいり、当初
はあまり注目されなかつ
たがオバマ大統領が昨年
TPP参加を表明したこ
とで、一気にこの機運が
高まったのです。この協定
は人や金の移動も盛り込み
農業分野を含む自由化の
例外を認めず、100%の関税
撤廃することを目指して
います。原則として各国
出場し、特に、女子チー
ムがビームライフル部門
において大会新記録で優
勝し、今年度の県高校ス
ポーツ賞にも輝きました。
さらに、千葉県には3
年生2名が出場し活躍を
して参りました。硬式テ
ニス部は県ベスト8まで
進出し、卓球部はインタ
ーハイ地区大会で女子が
準優勝、演劇同好会は地
区及びブロック大会優勝
と頑張っています。また、
農業クラブの活動では、
北海道で開催された農業
クラブ全国大会に、鑑
定競技と平板測量競技に出
場し、鑑定競技では3年
生が2名入賞を果たしま
した。そして、地域との
連携・交流活動は、農業
科を中心に農産物の販売
や出前授業、地域と連携
した商品開発等益々活発
になっていきます。資格取
得では、総合ビジネス科
のワープロ、簿記、情報
処理、電卓検定等の取得



はFTA、EPA協定の枠
組みの中では、国内産業
保護のため、事情に応じ
て関税率を決めている。
日本でも米を始め多くの
農産物を関税撤廃の対象
からは外してきた。ただ
し今回はTPPに参加す
ると米や牛肉など、農産
物品にかけられている関税率
を維持することは難しく、
国内農業が壊滅的な打撃
を受けるとして農業団体
等が強硬な反対運動を展
開しております。一方米
国は来年秋までに交渉妥
結を目指しており、日本
が参加表明に遅れるとル
ール作りの交渉に与で
きなくなり、農業保護に
向けた有利な条件を引き
出せないのではないかと
いう心配もされております。
今後この協定に参加す
ることになると、これか
らの農政をどう進めるのか、
個別補償制度の拡大など
さらに大胆な改革を断行
しない限り農業の将来は
先細りは避けられないだ
ろうと思います。

本校が農業者育成の高校
として多くの農業を送り
地域の中核として活躍
していることを思うと早く
将来の展望が見える農政が
待たれるのみであります。
とはいえ食料と米の確保は
世界的課題であつて年々進
む地球の砂漠化と人口増九
十一億で食料品は今後100
年で15%から40%値上がり
するだろうと国連の調査機
関では発表しております。
「農は国の本なり」の格
言はどんな時代にも通用
する金言ではありませんが、
変転極まりない時代です。
みんなの英知を結集して
この難局を突破したいも
のです。

大変時事解説調でした
がこの辺で稿を閉じたい
と思います。

青年部事業報告

平成十四年度卒 荒川 普 丸

平成二十年四月から同窓会青年部部長に就任しました。平成十四年度卒の荒川普丸です。よろしくお願ひ致します。

本年度活動におきまして同窓会役員の先輩方、事務局の先生方、また同窓生の皆様方には、日ごろより暖かいご指導ご支援をいただきまして、厚く御礼申し上げます。さて、来年度は役員改選から三年目になります。青年部の活動内容ですが、役員会（親睦会）を



同窓会会報北陵の発刊に当たり

PTA会長 小玉 貴 浩

今年度、本校PTA会長をおおせつかった益子町田野支部の小玉貴浩です。日頃より同窓会の皆様には、子どもたちのため、そしてPTA活動に對して、ご理解と協力を頂き大変感謝申し上げます。

今年度、北陵祭においてPTAとして「北陵カレール」と名付け二回目のPTA食堂を開催いたしました。食堂運営は、一回目とは言っても昨年は、インフルエンザで中止となり今年度は経験者も少なく大変でした。しかし、食堂を成功させようという気持ちが感じられました。この食堂運営を行う目的として、一つに、会員同士の親睦をはかる、

中心に役員間の交流を深めつつ、学校行事に参加することです。

しかし、昨年度は世界中で猛威を震った新型インフルエンザの影響で毎年みなさんが楽しみにしている学校祭が一週間前に中止になるといふ事態が起きてしまい、みなさんと同様に私達青年部もがっかりしました。「来年こそは」と意気込んだ今年度でしたが、青年部役員が都合がつかず毎年参加させて頂いてた、模

擬店の青年部特製「焼きそば」をみなさんに提供できなく残念に思っています。来年こそは必ず出店できるように致しますので、楽しみにして下さい。

青年部には、青年部研修旅行という行事があるのですが、こちらも個々の都合が折り合わず実施することができませんでした。研修旅行は毎年行なうのですが、年々参加者の人数が減少傾向で実施が困難になっています。

「ゴールしてからの楽しみの一つだ。」「お代わりください」「おいしかった」という言葉とともにあつたという間にたくさん作った豚汁も完食してしまいました。私たちも作って本当によかったと思えました。こういうたくさん

もう一つに、子供たちの作った農産物を保護者や地域の方々に味わっていただき喜んでもらうこと、この二つを目的と思い運営してきました。食堂運営は、たくさんの方々に「おいしい、おいしい」という言葉があちこちでわきあがり無事成功に至りました。これも、保護者の協力する気持ちが一つになったことが成功に導いたことだと思います。ただ、ただ感謝の気持ちだけでいいです。この食堂を北陵祭の一つの名物としていけるようにしていきたいと思ひ活動していけたらと思っています。伝統ある本校の持久走大会にはPTAとしての豚汁作りは、子供たちに

現在、青年部も後継者不足に悩んでおります。興味を持たれた方は、事務局の先生に聞いて下さい。



議長に就任して

昭和三十年年度卒 関 根 豊

最後にありますが、青年部としては、本校への協力に限られた活動内容になると思ひますので、同窓会各位の皆様、事務局の先生方には、今後とも青年部にご支援、ご協力のほどをお願い申し上げます。

上三川町議会議長の関根です。この度同窓会会報記事依頼をいただき感謝を込めて記登させてさせていただきます。



同窓会青年部

平成十三年度卒 山口 秀 明

同窓会青年部役員として平成二十年度から活動させて頂いております。毎年参加してまいりました北陵祭への参加も二年ほど参加していません。

近年の主だった活動としては、同窓会報の編集のみとなつてしまいました。先輩方から受け継がれてきた伝統を私達の代で止めてしまったことは非常に悔しい思ひです。

現状としては、同窓会役員が少なく、活動のマンネリ化により、いまひとつ盛り上がり

もう少し勉強をしていたら、土地の条件が悪いのかなど後悔先に立たず、思う様にはいきませんでした。

私達の高校進学者は約四十%位でした。三年間の授業を受けて卒業へとこの卒業式での校長の小林善蔵の言葉に、君達は地域の良き指導者となれ

そして家業の農業に取り組みましたが、何々思うようには行きません。どうしたら良くなるか

欠けています。現状を打破するために、皆さんの力が必要で

は、皆さん一人一人の若い力でこの同窓会青年部を盛り上げて欲しいと思います。

北陵高校の卒業生として、自分達の母校と一緒に盛り上げていきましよう。皆さんの協力があればまた、昔の様に伝統ある同窓会青年部の活動を盛り上げる事が出来ると思ひます。ぜひよろしくお願ひします。

燃やせ青春

青年部仲間募集！



農業最高賞に輝く

昭和六十一年度卒 柳 毛 隆 行

私が、本校を卒業して早いもので、二四年になり、高齢化が叫ばれている農業において、中堅的な立場となりつつあります。

私は先生方のご指導により、卒業後日本大学に進学、その後農業を客観的に見て、視野を広めようと、施設資材メーカーに就職しました。そして、八年後の、平成十五年三十歳の時に就職しました。現在我が家では、一八〇aの施設で、養液栽培（ロックウール栽培）に

入れて、文化活動も良いものです。

今は、農業は、後継者にまかせて、議会活動に邁進しています。

今思うと、農業の傍ら、土地の条件が悪いのかなど後悔先に立たず、思う様にはいきませんでした。

私達は常々アメリカ国の動向に注目しています。それは、三、四年も過ぎれば、日本も、同じ様になつてくるのではないかと

JAの会合では、組合長がウルグアイランドの話をされます。牛肉やオレノジ等、ぞくぞくと店頭に並び、日本の農業は黄色信号になつてい

そこで、平成十八年より、「売れるトマト作り、選ばれる産地」を目標に、関係機関の協力の下、地域の仲間と共に、プロジェクトチームを作り、市場調査や、試験栽培を繰り返して、技術開発を行ってきました。

その結果、中段密植栽培技術を確立、作型を年二作とし、温度管理を大幅に見直したことによる、重油使用量の削減や、高品質化、食味の向上などの成果が得られ、大きく経営改善を行う事が出来ました。

この様な取り組みに評価を頂き、昨年「第三回栃木県元氣な農業コンク

入れている。インターネットで車も求められる時代になり、それで購入してしまえばセールのスマンの仕事は、不要になる。さらに、最近では、住宅をローンで新築する人が増えて、昨年のリーマンショックに端を発して経済不況の影響で一段と厳しくなり、働く場所もないなど。

TPP自由貿易化も、騒がれている昨今、肉や農産物の米国の大量生産に對して、日本は質でいくしかない。もつと日本の農業に国は力を入れて取り組んでほしいと考える。こうしたグローバル化時代に入り、これからの農業を担う若者の力が求められている。

終わりに、北陵高校、そして同窓会の益々の発展をご祈念申し上げます。

「ル」において、最高賞である元氣大賞（農林水産大臣賞・知事賞）を受賞することができました。

今後は、さらに研究を進め、収量の増加を図るとともに、後継者のいない方の施設を借り受け、規模拡大を図っていきたいと考えております。

最後になりますが、本校ならびに、同窓会のみならずの発展と、同窓会員の皆様のご健勝をお祈りいたします。





近況報告 — 消防長就任 —

昭和四十五年度卒 野澤 博

私が本校を卒業してから、早いもので四十年の月日が流れました。

社会に貢献したいという思いから、当時真岡市消防本部を受験し採用され、翌年の昭和四十六年には、一市五町（旧二宮町を含む）を管轄区域とする芳賀地区広域行政事務組合消防本部が発足し、先輩消防官と共に現在の組合消防の礎を築きました。

入職当初は、訓練に明け暮れ、火災が発生すると、燃え盛る炎に最前線で立ち向かう「筒先員」として消火活動にあたり

ました。特に冬の火災発生時に、消防ポンプ自動車の後部ステップに乗り、凍てつく寒さの中、かじかむ手で手摺を握りしめ、現場へ向かったことは今でも鮮明に憶えています。

四十年に渡る消防人生において、数々の災害現場を経験してきましたが、その中でも特に印象に残っている火災は、平成十四年六月に発生した古タイヤ集積所火災です。想像を絶する規模の火災で、鎮火まで十五時間を要し、私自身も現場に赴き、消火作業や情報収集、原因

調査等を行いました。そして、通信指令課長時代には当消防部長年の懸案事項であった消防緊急通信指令システムの構築に携わり、一九九番通報受信から出動までの初動体制を強化し、被害を最小限に抑えた救命率の向上にも力を入れました。

また、仕事の傍ら、高校時代より始めた剣道にも動きました。昭和六十二年に開催された栃木県実業団剣道大会には、消防本部チームの副将として参加し、並に強豪を次々撃破し準優勝を勝ち取りました。現在も剣



全国優良経営体表彰 優良認定農業者知事賞

昭和六十年度卒

小玉 貴浩

地域とともに歩む農業を目指して

私は、昭和60年に、卒業後、宇都宮農業高校専攻科に進み昭和62年に就農した。両親、祖母、私の4人で、たばこを中心とし、水稲は200aで地域中堅規模でした。就農して数年後に、水稲の請負作業を始め、麦の作付けも始めました。年々たばこの作付け、水稲請負作業、麦の作付けが増え始めました。そこで、機械を効率よく利用するために、平成6年に地域の先輩方とコンバイン、田植機の機械利用組合、山本地域営農集団を組織し、オペレーター兼務代表として現在も務めています。平

成7年に、第1回の認定農業者の認定を受けた当時は、たばこ2500a、水稲2300a、麦1500aの規模でした。年々規模拡大が進み、平成10年に地区内2自治会で、水田のブロックローテーションで、麦、大豆の作付け、作業を営農集団が請負ことになり、それを営農集団から請け負い、それが一番の規模拡大の要素となりました。しかし、規模拡大を進めることにより、労働力が足りなくなってしまう、そこで足りなくなった労働力を、地域の先輩や後輩、農家の後継者に仕事をってもらうこ



とにより、経営の規模は年々規模を拡大し、水稲6000a、麦35000a、大豆20000a、ソバ7000a、飼料イネ3000aと土地利用型農業に変わり、徐々に地域の担い手として認められてきていると感じるようになりました。そんな中、たばこ栽培を22年産で廃作しました。我が家で長年栽培をして

きたたばこをやめることは、大変寂しいと思います。また、平成19年に、本郷松本集落営農組合が設立され、麦、大豆の経営の一元化になりました。今年、水稲も一元化にすることができました。これも、地域が一つになり、地域一体となつてこの難局を乗り越えたいとの表れであると思います。また、平成15年に、地域の人たちと農村ふれあい拠点施設、農村レストラン「ふれあいの郷 山のめぐみ」作りに参加し、色々の農業体験や交流に役立ちたいと思います。行なっています。

我が家では、自分、両親、長男が真岡北陵高校を卒業し、現在は、長男は理容師を目指して学校に通学

道を続け、消防職に必要な気力・体力・精神力を養い、さらに現在の若者は武道から離れがちですが、青少年に剣道を通じて剣道の理念である「剣道は、剣の修練による人間形成の道」であることを習得させ、近年社会問題となっている児童虐待や若者による弱者に対する暴力をなくし、人として暖かい思いやりと豊かな心をはぐくむ人間形成を目指し、少年剣士達を指導する剣道クラブ真光館館長として、日夜稽古に励んでおります。

現在は、消防長として新型インフルエンザや複雑多様化する災害に備え、地域の方々の安全安心を守るため業務を遂行して

います。本校で三年間学んだ誇りと、剣道を通じて培った「心・技・体」の教えと、お世話になつた全ての方々への感謝の気持ち忘れずに、十五万余の圏域住民の生命、身体及び財産を災害から守るため、日々自己研鑽に努めたいと思います。

結びに、本校と同窓会の益々のご発展を御祈念いたします。

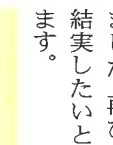


新任職員紹介

- ①氏名
- ②担当教科（職名）
- ③趣味
- ④自己PR



- ①平石 厚夫
- ②教頭
- ③農業
- ④五年ぶりに北陵高にもどってまいりました。五年前に植えたウメの樹が結実していると聞きました。再び本校で私も結実したいと思っています。



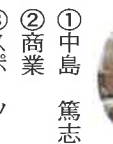
- ①富永 欣宏
- ②英語
- ③生きていることが趣味のようなもの
- ④「楽しく仕事し、真面目に遊ぶ」、よろしく願っています。



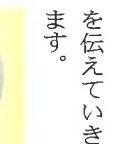
- ①島田 博雄
- ②草花、渉外部
- ④本校の校訓「今日ある協会会長賞、栃木県優良担い手等表彰事業優良認定農業者の部知事賞を受賞できたことも地域の皆様のおかげだと思っています。この場をかりまして感謝申し上げます。



- ①野澤 裕治
- ②農業科教諭
- ③魚釣り、料理
- ④趣味の魚釣りは、キャッチ・アンド・リリースがモットーです。命をありがたうの感謝の気持ちを忘れずに精一杯頑張りたいと思っています。



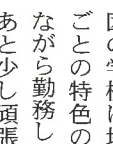
- ①中島 篤志
- ②商業
- ③スポーツ
- ④精一杯頑張りたいと思っています。



- ①柳 路子
- ②福祉
- ③楽器演奏
- ④地域で働いていた経験をいかして、楽しく「福祉」を伝えていきたいと思っています。



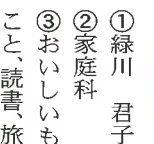
- ①柄木田 正春
- ②理科（化学、理科総合A、理科総合B）
- ③囲碁、野菜作り（スイカ、ナス）、旅行、ウォーキング等を広く浅くやっています。
- ④県立学校教員になってから宇河地区、上野地区、塩谷地区、那北地区そして芳賀地区の計5つの地区の学校に地区ごと学校ごとの特色の違いを感じながら勤務してきました。あと少し頑張ってみようと思っています。



- ①山口 栄一
- ②理科
- ③読書、絵
- ④できるだけ、興味の多い分野の本を読む努力をしています。



- ①坂本 善幸
- ②実習助手 野菜担当
- ③野球観戦
- ④何事にもこつこつと努力し、より良い方向に向かうよう考え、実行する。



- ①緑川 君子
- ②家庭科
- ③おいしいものを食べる
- ④いろいろな事に興味を持って、いろいろな意味で巾の広い人間になろうとしています。



- ①平野 和郎
- ②事務長
- ③野山の散策、ゴルフ
- ④やや太りぎみだが健康を維持していること



- ①菅又 久
- ②学校図書館司書
- ③スポーツ、特に野球がクシグです。
- ④これといって、特になにもないところですが、ひいて言えば、日本酒が好きです。

北陵の生徒のために頑張ります



農業クラブ会長として

三年一組 直井 大貴

私が農業クラブ会長になり、早一年が経ちました。昨年の先輩方や歴代の先輩方から長く続く、北陵高校の伝統ある農業クラブを引き継ぎ、一年間農業クラブの活性化のために活動してきました。会長という初めての重責に不安やプレッシャー・戸惑いに押し潰されそうになりました。しかし、私にとってこの一年は自分自身を成長させてくれたものでした。

今年度も多くの行事や活動が行われ、その一つを役員と協力し成功させてきました。中でも昨年度に引き続き開催された「北陵高朝市」は今年もたくさんの方々に来店していただき、北陵高校で採れた野菜や果樹、を販売することができ、活気にあふれた朝市となりました。

また農業クラブの県大会では昨年とは違い、受付を担当しました。初めてながら役員と話し合いながら無事成功させることが出来ました。また、各種大会でのクラブ員の活躍がありました。ぜひ、来年も今年以上に各種大会で活躍してほしいと思います。

今年一年間を振り返ってみると成功したことや失敗したことなど、たくさん頭をよぎりますが、会長という責任ある仕事が出来たのも役員や顧問の先生方、クラブ員のみならずのおかげだと感謝しています。本年にありがとうございます。

最後になりましたが、今後さらに北陵高校農業クラブが飛躍し、益々の御発展を心から祈念いたしております。一年間、会長という貴重な体験をさせていただきありがとうございます。ありがとうございました。



農業クラブ活動報告

顧問 有村 君子



今年度の農業クラブ活動は、各種競技・発表大会への出場や、北陵高朝市の継続、また宮崎県で発生した口蹄疫の募金活動など充実したものと動きました。

栃木県学校農業クラブ連盟大会は、各種発表大会及び式典会場を高根沢町民ホールで行い、各校ともに白熱した競技が行われました。本校からは、プロジェクト発表において区分食料で食品科学科三年の生田目麻衣さん他九名、区分文化・生活で生物生産科三年大関千春さん他二名が優秀賞に選ばれました。また、意見発表では、区分環境で食品科学科三年の大塚舞さんが、区分文化・生活で食品科学科三年の山口友梨絵さんが優秀賞に選ばれました。

農業情報処理競技会では、本校から3名が出場し、食品科学科三年の大

橋智美さんが優秀賞に選ばれました。

夏に行われた平板測量競技会では、農業機械科三年鶴見哲くん・貝塚侑真くん・高橋和也くん・古田一樹くんが出場し、他校の土木系学科を退け、最優秀賞を受賞。大会二連覇となり、全国大会への切符を手に入れました。

六月初旬に予定されていた家畜審査競技会（乳牛の部）は、宮崎県で発生した口蹄疫の影響により、北海道で行われる全国大会が開催中止となり、本県においても防疫のため延期となつてしまいました。しかし、八月下旬に終息宣言が出されたことを受け十二月に県大会が実施され、本校からは、生物生産科二年伊沢俊哉くん・金子美久さんが優秀賞を受賞しました。

十月には第六十一回日本学校農業クラブ全国大会が北海道で行われまし

農業鑑定競技全国大会に参加して

三年二組 菱沼 章



私は今回、十月に北の大地北海道で開催された連盟結成六十周年記念第六十一回、日本学校農業クラブ全国大会、農業鑑定競技会の農業機械コースに出場してきました。

農業クラブの全国大会とは、全国の農業高校の代表が各部門の競技に出場し、自分たちの実力を争う農業高校の甲子園と呼ばれる大会です。

私が、出場した競技は農業鑑定競技というもので、農業、園芸、畜産、生活科学、食品科学、農業土木、林業、造園、農業機械の九つのコースがあります。競技内容は、

問題は全部で四十問あり、一問目から三十八問目までは選択や記述問題で二十秒で一問を解きます。最後の二問は計算問題で各コースに関係する計算を一問を四十秒で解きます。この競技は、校内大会で優秀な成績を残すと自動的に全国大会へ出場ができる競技であります。

私は、七月に行われた校内での競技会を終え、全国大会への出場が決まってから約二ヶ月間、過去問などの整理などに励みました。その間にも過去問などを解きましたが、予想外な問題の難しさに自信をなくしかけてしま

平板測量の大会に出場して

三年二組 鶴見 哲



私は今回、十月に北海道で行われた日本学校農業クラブ全国大会に出場しました。農業クラブの全国大会とは、全国の農業高校の代表が各部門の競技に出場し、自分たちの実力を争う農業高校の甲子園と呼ばれる大会です。

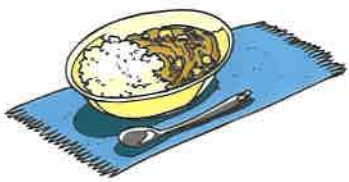
私達が、出場した競技は平板測量競技会というもので、競技内容は決められた場所を測量機器を使い、面積を求めて各代表チームと争うといった競技に出場しました。

メンバーは私を含め、三年二組の貝塚侑真君、

同じく二組の高橋和也君、同じく二組の古田一樹君の計四人で出場しました。

私達は、菅井先生と阿久津先生と印出井先生のご指導のもと学校の放課後や夏休みに毎日学校の農場や、グラウンドで練習をしてきました。そして、ご指導していただきみんなで力を合わせた結果、八月に行われた栃木県の平板測量競技会では最優秀賞をいただくことができました。その結果を聞いた時は、みんな抱き合ってしまうほど喜びました。

そして、全国大会の出



問題は全部で四十問あり、一問目から三十八問目までは選択や記述問題で二十秒で一問を解きます。最後の二問は計算問題で各コースに関係する計算を一問を四十秒で解きます。この競技は、校内大会で優秀な成績を残すと自動的に全国大会へ出場ができる競技であります。

私は、七月に行われた校内での競技会を終え、全国大会への出場が決まってから約二ヶ月間、過去問などの整理などに励みました。その間にも過去問などを解きましたが、予想外な問題の難しさに自信をなくしかけてしま

感謝申し上げます。本当にありがとうございます。全国大会で賞を取ることができたのは先生方のご指導があったからだと思っています。最後に、この競技は学年が関係なく参加できる競技です。後輩のみなさんはぜひ全国大会へ出場にむけて努力してみてください。

わり、私は少し後悔しています。しかし私は、仲のよい友達と楽しく大会に出場できてとても良かったです。私は、二連覇を目標に練習してきました。しかし今年は猛暑続きで、何度も練習に行きたくないと思いましたが、それを我慢して練習を行い先生やメンバーのみなさんと頑張ったおかげで全国大会に出場できたのだと思います。

本当にありがとうございます。



家庭クラブ会長として

三年五組 佐藤 麻希

私が初めて家庭クラブの会長としてお話をいただいた時、私にこんな大役が務まるかと不安な気持ちでいっぱいでした。しかし家庭クラブでの活動は、自分自身を大きく成長させてくれた場であり、家庭クラブで活動できたことをとても誇りに思います。

毎夏に行われるリーダー養成講習会では、会長として参加し、他校の生徒の方々と関わることでいろいろな意見を聞くことができ、私にとってはとても大きな経験となりました。

先生方に見守られ、家庭クラブ員に支えられ、役員のみならず協力し合い、充実した三年間を送ることができたのも、多くの方が協力してくださったからだ、心から感謝しています。いつも笑顔の絶えない、そんな家庭クラブの役員として関わることができたことは私の宝です。本当にありがとうございました。

アルミ缶回収では、学年の生徒のみならず先生方にも協力していただき、集めたアルミ缶を換金してハンドソープを購入しました。また、今年度から始まったペットボトルのキャップ回収でも協力をいただき、たくさんの方々が集まっています。これは発展途上の国の子どもへワクチンを届けるというボランティアとなつています。これらの活動は、普段関わることはないクラスの方々にも協力していただいているのだと思うと、一つひとつのアルミ缶やペットボトルのキャップが集まるたびに、たくさんの人たちとの「つながり」を感じることができました。



家庭クラブ活動報告

顧問 松本 歩

学校家庭クラブは「創造・愛情・奉仕」の精神を柱とし、家庭科を学習する高校生を会員とした組織です。本校の家庭クラブでは、教養福祉科が福祉教育の中で家庭クラブ活動を展開しているところに特色があります。

本校の家庭クラブは、交流活動・研究活動・奉仕活動を積極的に実施しています。家庭クラブ役員が中心となつて企画・運営し、楽しく活動しています。

今年度の交流活動では、調理講習会を三回行いました。調理・会食をしながら、学年の枠を超えて情報交換をすることができ

生や来校された方々に募金を呼びかけ、ご協力をいただきました。それらの募金は財団法人ユネスコ協会に寄付させていただきました。

研究活動では、十二月に意見発表会を行いました。各学年の代表者の意見発表、二年ではエプロンシアター、三年ではパワーポイントを活用した調査研究を発表しました。他者の意見や他学年の授業の成果を知ることができ、他者を知ることで、どの生徒も真剣な眼差しで聴いていました。

本校の家庭クラブは、エコキャップ回収や募金活動など、あまり目立たない活動でも力を惜しまず誠意をもって取り組んでいます。また、交流・研究活動では、学年を超えて他者の意見を知ること、他者を認め合うことを学ぶきっかけとなつていきます。これらの家庭クラブ活動の実践を通して「豊かな心」が身につくことは、これからの社会を支える福祉人材を育成するためにも意義あることだと思います。今後も家庭クラブ員の益々の活躍に期待しています。



心の安全装置

特活部 小島 理 夫

私は夏は山、冬はスキーとシーズンがはっきり分かれている。スキーはスピードが出て面白い。いいターン、いいタイムが出るとうれしい。全くの鳴かず飛ばずではあったが、以前(少なくとも10年前までは)「国体選手になりたい」と思ってた頃、滑っていた。しかし、今では「怖くなって」というかケガをしすぎてというか腰が引ける部分がある。競技大会から完全に引退している。気持ちも充実すれば、またしっかりボール練習して大会に出てみたいとは思っているのだが...

旧聞だが、1年前は冬季オリンピックイヤーであった。オリンピック前にNHKで「ミラクルボ



生徒会長として振り返る

生徒会長 赤羽 悠 太

私が生徒会長になって早一年が過ぎました。昨今までは副会長として仙波会長のもとで仕事を務めてまいりました。仙波先輩の仕事ぶりを間近で拝見し、自分は果して仙波会長のようにやれるのか、そして仙波会長のような生徒会長になりたいと思つてこの一年間頑張ってきました。

私は夏は山、冬はスキーとシーズンがはっきり分かれている。スキーはスピードが出て面白い。いいターン、いいタイムが出るとうれしい。全くの鳴かず飛ばずではあったが、以前(少なくとも10年前までは)「国体選手になりたい」と思ってた頃、滑っていた。しかし、今では「怖くなって」というかケガをしすぎてというか腰が引ける部分がある。競技大会から完全に引退している。気持ちも充実すれば、またしっかりボール練習して大会に出てみたいとは思っているのだが...

速く滑るために、ターンの際に強いエッジングを行わない(強いエッジングは減速につながる。また、体力の消耗につながる)。②は優れた動体視力を手に入れたということか。存在だけでなく空間認識を得る事で素早い判断とライン取りができるのであろう。彼は次のような事を述べていた。「限界をこえるために心の安全装置をはずす。」我々はプロレーサーでもトップアスリートでもないのに、ここまで必要はないだろう。しかし我々には自分の夢や直近のテストや資格試験に対して「どうせ自分はこのまま」「もう無理」「限界」と決めつけている「安全装置」が働いてしまうことがある。「安全装置」をはずしてみると、自分の可能性が広がる、そんなことがあるのかもしれない。さあ、はじめてみましょうか。

皆さん一人一人がよりよい北陵祭になるように頑張ったおかげだと思えます。最後にありますが、校長先生をはじめ諸先生方、生徒の皆様、本当にお世話になりました。この一年私は大変素晴らしい体験をさせていただきました。今後、新生徒会長を中心に北陵高校のさらなる発展を祈念しております。私は、北陵高校から離れるわけですが、これからも北陵高校と皆さんを応援していきたいと思えます。一年間、本当にありがとうございました。

頑張ってます。北陵生

平成22年12月現在

- ＜ライフル射撃部＞
(A Rはエア・ライフル B Rはビームライフルの略)
○平成21年度第29回全国高等学校ライフル射撃競技選抜大会
A R 男子個人優勝 大関幸平 / A R 女子個人2位 柿沼 彩
B R 女子個人2位 高橋里佳 5位 菅谷祥子
○平成22年度第9回全日本ジュニアビームライフル射撃競技大会
男子団体準優勝 菅谷祥子・高橋里佳 / 男子個人優勝 大関幸平
女子団体準優勝 柿沼 彩・菅谷祥子・高橋里佳 / 3位 中山美希・バティノカオリ・飯村晴香
女子個人2位 菅谷祥子 5位 バティノカオリ
○栃木県高等学校総合体育大会3年連続優勝の表彰
ライフル射撃部 男子 および 女子
○平成22年度第36回関東高等学校ライフル射撃競技大会
A R 男子団体準優勝 大関幸平・大関幸平・貝塚倫真 / 男子個人7位 大関幸平
A R 女子個人優勝 柿沼 彩 4位 菅谷祥子
B R 男子団体3位 菅谷祥子・高橋里佳・菅谷祥子・高橋里佳
B R 女子団体準優勝 高橋里佳・バティノカオリ・飯村晴香 / 女子個人2位 バティノカオリ
○平成22年度第48回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会(インターハイにあわせて24名出場)
A R 男子団体4位 大関幸平・大関幸平・菅谷祥子・菅谷祥子 / 男子個人4位 大関幸平
A R 女子団体6位 柿沼 彩・菅谷祥子・中山美希
B R 女子団体優勝 高橋里佳・バティノカオリ・飯村晴香 / 女子個人5位 高橋里佳
→全国大会優勝者知事表彰 及び 栃木県高校スポーツ賞受賞(3名)
B R 男子個人6位 菅谷祥子・高橋里佳・高久翔平
○平成22年度第65回国民体育大会 ライフル射撃競技
A R 少年男子60発競技4位 大関幸平 / 少年男子40発競技3位 大関幸平
○平成22年度JOCジュニアオリンピックカップ
B R 女子個人4位 飯村晴香
○平成22年度第8回関東高校ライフル射撃競技選抜大会
A R 男子個人2位 萩原 薫 7位 折原和希 / A R 女子個人優勝 中山美希
B R 男子個人5位 小林郁弥 / B R 女子個人5位 高橋里佳 8位 飯村晴香
→全国選抜大会に3名出場予定
- ＜卓球部＞
○平成22年度関東大会栃木県大会中部地区予選 女子団体3位
○平成22年度インターハイ栃木県大会中部地区予選会
女子ダブルス 準優勝 河上 彩・桑田 優 3位 岡田裕美・日下田祥子
男子シングルス 3位 上野裕輝
○平成22年度インターハイ栃木県予選および国民体育大会1次予選
男子シングルスベスト32(シード権) 上野裕輝
○平成22年度中部地区新人卓球大会
男子団体3位 / 男子シングルス2部優勝 桑原 将
男子ダブルス2部3位 仙波芳清・桑原 将
女子ダブルス2部優勝 森山 香・松林芽衣 / 3位 酒井美香・見目有葉
- ＜テニス部＞
○中部支部新人大会 ブロック優勝(県大会出場)
男子ダブルス 廣澤直人・佐藤曜弥 / 女子ダブルス 上野裕香・藤野遥子
○栃木県新人大会 女子団体ベスト8 シングルスベスト16(強化指定選手) 藤野遥子
○中部支部大会 女子団体ベスト8 / 女子ダブルスベスト8 上野裕香・藤野遥子
- ＜弓道部＞
○第26回真岡市体育協会会長杯弓道大会
高校生個人の部 優勝 板橋孝典 2位 廣澤研二
高校生団体の部 優勝 廣澤研二・吉永健太・板橋孝典 / 準優勝 松崎紗季・大塚千尋・中田千晴
- ＜演劇同好会＞
○総合文化祭演劇研究会栃木県演劇大会 優良賞
○上野賀・下野賀・芳賀地区演劇ブロック大会 最優秀賞
○芳賀地区芸術祭 最優秀賞 個人演技賞 竹花奈央未
- ＜芳賀地区芸術祭＞
○短歌部門 入選 金子友香 西川美琴
○俳句部門 入選 石川ももえ 小池 恵 仙波大知
- ＜交通安全0(ゼロ)の回＞
交通安全標語 山崎裕加 秋山楓花
○平成22年度防犯ポスターコンクール
銅賞 菅野 恵
○日本赤十字社「いのちと献血」俳句コンテスト
団体賞 真岡北陵高校
○第21回伊藤園「おいとお茶新俳句大賞」
佳作 成崎かおり
- ＜吹奏楽部＞
○第3回県南支部アンサンブルコンテスト 金賞7重奏 銀賞
○芳賀・真岡支部ソロコンテスト 金賞 黒崎天斗 寺門有美香 村上雄一

山岳部活動から

二年一組 星野 修 孝



僕たち山岳部は小島先生の指導のもと、毎日練習に励んでいます。部員は3年生1名が引退した現在、2年生1名、1年生1名の合計2名と少ないですが、一生懸命頑張っています。日々の練習内容は、マラソンコース4キロや学校から井頭公園の中を走る7キロコースを走ったり、こもれび坂を走る坂ダッシュがあり、筋トレを組み合わせて汗を流しています。天候不良時には、校内の階段を駆け上がる「ポッカ」をやっています。これらの練習は、普段の月一程度の山行や大会だけでなく、最大の行事である夏山合宿に向けて体力の向上を図るためのものです。また、山についての知



識をつくるために地図の見方を勉強し、山の急な登りや下りの見分け方を身につけています。山に咲く植物(高山植物)の本を読んだり様々な勉強会を行っています。

今年度の夏山合宿は、長野県駒ヶ根市の木曾駒ヶ岳で合宿を組みました。前年度までは2回合宿を組みましたが、今年度は部員が少ないので1回だけで済みました。木曾駒ヶ岳は中央アルプス(木曾山脈)の盟主です。初日、宝剣岳と駒ヶ岳を登り、翌日は南下して空木岳に行く予定でしたが、台風が直撃し計画を断念。山小屋泊まりで停滞してしまいました。小屋では真夏なのに石油ストーブをつけていて感動。結局初日に宝剣岳、

演劇同好会

顧問 大和田 律 夫



演劇の「大会」といっても、どのようなものなのか、知らない人が多いと思います。ここでは、その「大会」について述べます。まずは、芳賀地方芸術祭。これは芳賀地区の小中学校、一般の演劇集団が競うコンテスト。ついで、地区ブロック大会。ここから高校演劇の本番。芳賀・下野賀・上野賀地区の高校が競い、2校が選ばれ、県大会へ進めます。その中の上位2校が、関東大会。さらに1校が全国大会と進みます。さらにその中の優秀校3校が国立劇場への出演、NHKでのTV放映となります。本校が属するのは3年前に国立劇場出演校、地区3連覇中の栃木高校と同じ地区。一度も

県大会にすら出ていない本校には大きく立ちはだかる巨人に思えます。我々はこの巨人を倒すために今年度は今まではない気概と努力で地区大会に臨みました。結果は最優秀賞1念願の県大会出場でした。前評判が高すぎ、県では平凡な芝居に終わってしまったが、来年度に繋がる経験でした。厳しさの中に優しさのある、各校の部員達の醸す県大会独特の雰囲気。酔い、来年も上を目指して行きたいと思っています。

今年の進路状況について

進路指導部



今年度の進路状況は少子化の影響により、大学や短大の学校間の難易度の差がより明確となると共に、校種間や地域間における二極化が一層進む状態が続いています。県内専門学校ではAO入試を導入して、早朝からの生徒獲得競争が激化する傾向となりました。このような中、本校への指定校数は大学八八校(昨年八八校)短大三五校(昨年三五校)専門学校七四校(昨年七四校)と、この数年は同じ学校からの指定校が見込まれます。今年度迎いから不景気になると将来を見込み手に職をと考える学生が多くなり、資格優先の学校を選ぶ傾向に変わり、それらの学校の倍率が軒並み2倍〜3倍に、そして指定校でも学力試験を実施して不合格を出してきています。本校でも基礎学力試験を実施して不合格の風をまともにうけてしまいました。特に学校間の差が出やすい国・数・英の学力基礎試験で受験生のできばえの比較をされました。その中で、自動車工学や看護士養成校においては、小論文だけではなく、数学試験で合格を決めていた学校もありました。十二月末現在で進学希望者数九一名が受験して、専門学校等には六〇名が合格することができました。

一方、就職状況は、アメリカ合衆国を発端に起きたリーマン・ショックの為に金融不安となり我が国でも円高と株安にデフレ等が加わり、企業の収支は赤字へと転落し企業倒産数の増加等の経済の動きが昨年度までの傾向でしたが、本年は、日米の株価は三年前の九月代の値に回復したものの、円高は引き続きドル・ユーロ安が続いていて中小企業が雇用環境を整えられない状況です。それに伴い大学生の採用状況が過去最低になり、高校生採用状況もそのおかげで十月末国内内定率五七%余、県内十一月末内定率六五%余と厳しい状況が続いています。このような中で、本校への求人件数は、県内一三二社(昨年七八社)県外六八社(昨年八三社)となり、県内は約七割増と(県教育委員会調査は、各校平均二・三割減とのこと)嬉しい内容でした。本校では六月からの対策が功を奏して求人が三年前と同レベルになりました。昨年十二月末においては内定率は七割に達していませんでしたが、今年度は九割を超え、残り数名の生徒を一月に実施する県全体の合同面接会で内定をもたらえるよう頑張らせていると思っています。今年度の就職試験の特徴としては、コミュニケーション

能力や性格、適性検査で判断していた昨年とは違い、学力を重視する企業が増えたのと、制服の着こなし等見た目も加わりました。それに運動部等の部活で活動してきた生徒と三年間何をしていたかしっかりと生徒に有利な状況が見られました。そのため、自ら積極的にアピールできない生徒の厳しい状況がありました。内定状況については、十二月末で就職希望者八七名のうち七九名が内定を得ています。進路先が決まった後も気を緩めることなく、日々学校生活に真剣に取り組んでほしいと思います。今年度の成果は学校全体はもとより担任の先生方の継続的な指導の成果と感謝しています。しかし、一・二年生の一部の生徒の学校生活の様子をみていますと、残念ながら挨拶や言葉遣いをはじめとした『コミュニケーション能力』が不足しているように感じます。将来を見通して『今、何をすべきかを考えて行動する力』『他人

編集後記

今年度は夏猛暑で冬は厳しい寒さが続き、日本海側では大雪が降り、生活にも影響が出ている有様です。世界の多くの地域で自然災害が発生しています。何か少しずつ狂ってきているのかも知れません。

経済情勢も中々良好な方向に進みません。今は我慢のしどころかもしれませんね？

編集委員

井澤 誠 館 芳衛
廣田茂十郎 猪野 正子
荒川 普丸 豊田 一樹
山口 秀明 宮田 尚之

同窓会では会報の編集委員を募っています。是非あなたのご協力をお願いいたします。